

令和7年度

# 「運営に関する計画」

【年度初め】

大阪市立野里小学校

校長 芦高 浩一

令和7年4月

## 1 学校運営の中期目標

## 現状と課題

## ○教職員の協働および学級・学年・学校経営の安定

<校訓>	<めざす子ども像>	<学校教育目標>
ただしく なかよく たくましく	<input type="radio"/> 一生懸命考える子 <input type="radio"/> 心豊かな子 <input type="radio"/> 元気な子 <input type="radio"/> 仲間を大切にする子 <input type="radio"/> 気持ちよくあいさつする子	豊かな人間性を育み、正しく仲よくたくましく生きぬく子を育てる

## ○保護者・地域とのよりよい連携

## 【安全・安心な教育の推進】

令和6年度の学力経年調査の児童質問紙（3～6年）で「学校に行くのは楽しいと思いますか」に「そう思う」との回答が、37.5～53.8%（R3:28.1～50.8%）であった。また、「自分には良いところがあると思いますか」に「そう思う」との回答は40.0～50.0%（R3:26.3～42.9%）であった。

学級経営の力量向上に向けた自主的な研修や縦割り活動を中心とする異年齢集団活動の充実により集団生活のルールやマナーを意識した学校生活を過ごす態度の育成が進んでいる。しかし、3年間に渡る校舎改修工事や児童数の減少により体験的な活動が制限され、児童の学習活動に少なからず影響が残っている。また「働き方改革」に伴う勤務時間については、教職員の実態を考慮しつつ教育活動の充実をめざして効率的かつ効果的に運用していく必要がある。

全教職員でカリキュラム・マネジメントを意識して本校の教育課程を見直し、各教職員が力量を発揮できる協働性の高い組織づくりが問われている。そして、児童虐待やネグレクト、ヤングケアラー等の課題については、保護者や地域の協力や関係機関との連携を密にして開かれた学校づくりを大切にしたい。

また、「いじめ・問題行動・不登校」等の対策には、組織的対応・即時解決に努め、適宜、関係機関連携を行っている。しかし、家庭との連携が困難なケースが増え、不登校傾向の児童が増加しつつある。教職員全体で児童理解や情報共有の機会を定期的に設け、さらに教職員と児童・保護者、児童相互の関係性を深めるために、「自尊感情」を高める学級・学校づくりに努めている。

そして、安全・安心な学級づくりを進めるために、コミュニケーションの力を伸ばせるよう「国語科」を研究の柱として体制を整備していく。その際、学級経営を進める上でインクルーシブ教育の視点を持ち、児童理解を深めながら児童の実態に合った指導や支援を継続していくことが大切であると考える。

## 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

令和6年度の学力経年調査の児童質問紙（3～6年）で「学校が休みの日にインターネットを使って動画やゲーム SNS をしている時間」に「4時間以上」との回答が27.5～44.2%であった。特に月曜日には欠席や遅刻の児童数が多く、授業に参加できていないことが学力・体力の低下に影響を及ぼしている。

また、児童数に伴う学級や教員の数は減少しており、指導者の授業力向上に関する研鑽や児童理解等に対する知識や経験の差は大きな課題となっている。そこで、より分かりやすい授業をめざして教員自身が教材研究に取り組む時間を確保することで児童が主体的に学ぶ授業構成を工夫していく必要がある。

健康・体力面については、毎日の健康観察を念入りに実施している。規則正しい生活習慣の確立に向けては、家庭との連携のもと、早寝・早起きの声掛けや毎日の食の指導を通して、健康な体づくりへの意識を高めている。特に睡眠やスマホ・ゲームの時間等については家庭の協力が不可欠なので家庭への啓発を継続していく。

### 【学びを支える教育環境の充実】

一人一台端末の整備により、個別最適化を意識した学習の時間を確保が進んでいる。授業の中で対話的な学びと適切に組み合わせて学習することで学習内容の定着が期待できる。そのためには、教員同士の情報交流を深め、ICT活用への学びを深める研修機会を計画的に設定していく。

ただ、家庭の状況や教員の技能面でまだばらつきが残るため、家庭と連携を深めながら教員の技能向上をめざしていく。また、ICT活用による、教職員の働き方改革について、校務の見直しや精選を図ることで効率化に努める等、子どもたち一人一人に向き合う時間を確保できる環境を整えていく。

### 中期目標

#### 【安全・安心な教育の推進】

**中期①** 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答をする児童の割合を90%以上にする。

(基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現)

**中期②** 令和7年度の校内調査において、不登校児童の在籍比率を令和3年度より減少させる。

(基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現)

**中期③** 令和7年度末の校内調査の「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を100%にする。 (基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現)

#### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

**中期①** 令和7年度の小学校学力経年調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の項目について最も肯定的に答える児童の割合を35%以上にする。 (基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上)

**中期②** 令和7年度の全国体力・運動習慣等調査の「運動やスポーツをすることが好きですか」の項目について最も肯定的に答える児童の割合を62.6%以上にする。

(基本的な方向5 健やかな体の育成)

#### 【学びを支える教育環境の充実】

**中期①** 令和7年度末の校内調査の「日々の授業の中で学習者用端末を活用して、学習をしている」の項目について「ほぼ毎日」と答える児童の割合を75%以上にする。

(基本的な方向6 教育DXの推進)

**中期②** 令和7年度末までにゆとりの日を、週1回は設定する。学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、夏季休業以外の休業期間においては1日以上設定する。

(基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり)

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【安全・安心な教育の推進】

- 年度① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由であってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 85.5% 以上にする。  
(基本的な方向 1 安心・安全な教育環境の実現)
- 年度② 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。  
(基本的な方向 1 安心・安全な教育環境の実現)
- 年度③ 本市調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 100% にする。(基本的な方向 1 安心・安全な教育環境の実現)

### 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 年度① 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 41% 以上にする。 (基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上)
- 年度② 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか」の項目について最も肯定的に答える児童の割合を 63% 以上にする。  
(基本的な方向 5 健やかな体の育成)

### 【学びを支える教育環境の充実】

- 年度① 授業日において、児童の 8 割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の 51% 以上にする。 [ただし事務局が定める学校行事等 ICT 活用が適さない日を除く]  
(基本的な方向 6 教育 DX の推進)
- 年度② 年次有給休暇を 10 日以上取得する教職員の割合を 87% 以上にする。  
(基本的な方向 7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり)

#### 4 令和7年度の自己評価結果の総括

総括

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【安全・安心な教育の推進】</b>	
<b>年度①</b> 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由であってもいけないことだと思いま すか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を85.5%以上にする。 (基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現)	
<b>年度②</b> 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。 (基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現)	
<b>年度③</b> 本市調査における「スマホの危険性や適切な使い方について理解していますか」に対して 肯定的に回答する児童の割合を100%にする。(基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現】</b> 生活指導連絡会などにおいて、児童理解・保護者との連携について共通理解しながら対応する。 <b>指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>校内外で発生した生活指導上の問題点について、生活指導連絡会を月1回以上実施してその対応を協議する。問題が発生した際には、状況をすぐに全教職員で共通理解できるよう、随時 SKIP連絡掲示板や「いいとこみつけ」を活用して、安心・安全な学校づくりに努める。</li> </ul>	
<b>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</b> 自己有用感を高め、望ましい人間関係を構築する。また、話合い活動や体験学習を積み重ねることで、コミュニケーション能力を身につけ、様々な友だちと協力できる体制を推進する。 <b>指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>たてわり班活動（たてわり班での清掃や集会等を含む）を中心とした異年齢交流を学期に1回以上、全校やペア学年で実施し、児童のコミュニケーション能力を高める。</li> <li>代表委員会を中心に「あいさつ運動」を週1回以上行い、気持ちのよいあいさつがすすんでできる児童の育成を図る。学校教育アンケートにおける「すすんであいさつがいえます」と最も肯定的に答える児童の割合を60%以上にする。</li> </ul>	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容①
取組内容②
<b>今後の改善点</b>
取組内容①
取組内容②

大阪市立野里小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</b></p> <p><b>年度①</b> 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を38%以上にする。（基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上）</p> <p><b>年度②</b> 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることが好きですか」の項目について最も肯定的に答える児童の割合を63%以上にする。（基本的な方向5 健やかな体の育成）</p>	

度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p><b>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</b> 「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業実践に取り組み、学力向上を図る。</p> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度の学校教育アンケートにおける「自らすすんで勉強に取り組みましたか」の項目について最も肯定的に答える児童の割合を38%以上にする。</li> </ul>	
<p><b>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</b> 国語科において、自分の考えを深めたり、広げたりする話し合い活動を推進する。</p> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度の学校教育アンケートにおける「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を31%以上にする。</li> </ul>	
<p><b>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】</b> 自分の健康に関心を持ち、規則正しい生活習慣の確立に努めるとともに体育科の授業において計画的に体力向上を図る。</p> <p><b>指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度の学校教育アンケートにおいて（健康生活に関する内容：運動、睡眠）で肯定的に回答する児童の割合を71%以上にする。</li> <li>なわとび、ダンス、かけ足などの運動に関する週間を通期で3回以上行う。</li> <li>規則正しい生活習慣を身につけるよう健康生活に関する強調週間を学期に1回実施する。</li> </ul>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

取組内容①
取組内容②
取組内容③
今後の改善点
<p>取組内容①</p> <p>取組内容②</p> <p>取組内容③</p>

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<b>【学びを支える教育環境の充実】</b> <b>年度①</b> 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が年間授業日の51%以上にする。[ただし事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日を除く] (基本的な方向6 教育DXの推進)	
<b>年度②</b> 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を87%以上にする。 (基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<b>取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】</b> 学習者用端末を活用した実践に取り組む。	
<b>指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度の学校教育アンケートにおける「日々の学習の中で、学習者用端末(パソコン)を活用して学習していますか」の項目について、最も肯定的な回答をする児童の割合を48%以上にする。</li> </ul>	
<b>取組内容②【基本的な方向8 生涯学習の支援】</b> 読書活動を充実させ、言語能力・情報活用能力などを育成する。	
<b>指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度の学校教育アンケートにおける「読書は好きですか」の項目について、最も肯定的に答える児童の割合を70%以上にする。</li> </ul>	
<b>取組内容③【基本的な方向8 生涯学習の支援】</b> 学校だより・学年だより・学校ホームページやミマモルメなどで学校生活の様子を伝え、家庭や地域と連携して子どもの教育に取り組む。	
<b>指標</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校だよりや学年だよりを月1回以上発行し、保護者が知りたい情報を発信する。</li> <li>行事や学年の特色のある取り組みについて、学校ホームページ上で情報発信を行い、家庭や地域に学校生活の様子を伝えていく。</li> <li>ミマモルメを活用したアンケートの回答率を50%以上にする。</li> </ul>	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①	
取組内容②	
取組内容③	
今後の改善点	
取組内容①	
取組内容②	
取組内容③	

